

【佐賀県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

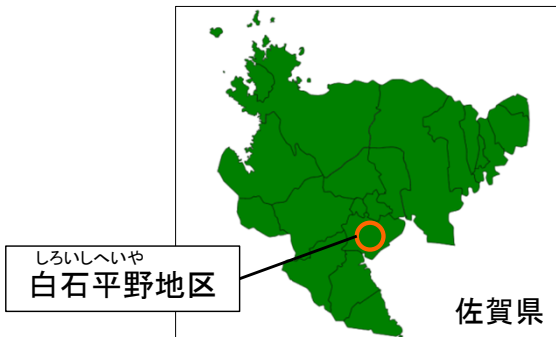
市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
白石町	白石平野	野菜による「水田フル活用」と地域農業の持続的な発展	1	H29.08	3
嬉野市	塩田東部	水田へのキャベツ栽培導入により女性や高齢者も活躍できる地域へ	2	H31.03	5
神埼市	小鹿	女性の元気を活かした6次産業化への取組	3	R元.12	6
白石町	筑後川下流白石	クリークを生かした農地・農業用水利施設の湛水被害の防止	4	R元.12	6
佐賀市、小城市	佐賀中部	クリーク水路網の排水機能の強化・回復で湛水被害を軽減	5	R3.03	7
みやき町	みやき	クリーク再整備と事前排水により湛水被害のない地域を目指して	6	R4.03	8
小城市	三日月	農業法人の働きやすい環境を目指した女性経営者の活躍	7	R5.03	9
杵島郡大町町	下大町	基盤整備による農地集積と環境制御型ハウス団地の整備	8	R7.03	11

【工夫のポイント】

- 区画整理や暗渠排水の整備により高収益作物(たまねぎ、キャベツ)の作付を拡大。
- 貯蔵施設の活用や6次産業化を通じて経営の安定化を図る。
- 県外から白石町内に移住する就農希望者を対象とした研修制度「しろいし農業塾」を開始し、担い手の育成を推進。

【取組地域の概要】

- 位置 しろいしちょう
佐賀県白石町 (過疎地域)



- 主要作物
・水稲、麦、大豆、たまねぎ、キャベツ 等

- 主な支援施策
・国営筑後川下流土地改良事業(S51～)
・県営ほ場整備事業(S51～H9)
・県営地域水田農業支援緊急整備事業(H18～H25)
・農業基盤整備促進事業(H24～)

基盤整備の効果を活かし、高収益作物の作付け拡大と農作物の安定生産を実現

区画整理や暗渠排水の整備により営農の効率化や水田の汎用化が図られ、たまねぎ等の高収益作物の作付を拡大。また、水源転換による地盤沈下の抑制や、安定的な農業用水の供給を通じて、農作物の持続的かつ安定的な生産が可能となった。



区画整理後の状況



農業用水の送水開始

基盤整備 (S51年～)

【整備前】

ほ場の区画や農道が狭小であり、大型農業機械の導入が困難であった。また、用水不足のため、地下水の過剰な汲み上げに頼った結果、地盤沈下を招き農業用施設等に被害を及ぼしていた。



区画整理前の状況



抜け上がった農業倉庫

基盤

JAが中心となり農作業の機械化を推進



たまねぎの収穫状況

- JAが中心となり機械化一貫体系(定植から収穫までの主な作業を機械化)を普及。作付規模の拡大と栽培技術の向上を推進。(たまねぎ、キャベツ)
- 3月～4月に出荷される「さが春一番たまねぎ」の地域ブランド確立やキャベツの産地化を推進。

生産現場

安定的な販売体制の整備と6次産業化への取組



町内産大豆を使用した「豆腐の粕みそ漬け」

- たまねぎ貯蔵施設による品質保持により、長期間にわたる安定出荷を実現。
- 6次産業化にも取り組み、新たな商品開発を推進。(れんこんチップス、豆腐の粕みそ漬け等)

加工・流通

担い手の育成と経営力の強化



「しろいし農業塾」の研修状況

- 県外から白石町内に移住する就農希望者を対象とした研修制度「しろいし農業塾」を開始。 ※平成27年10月1日に開設(H27実績:4人)
- 集落営農組織が70組織設立されており、今後は法人化への取組を強化。 ※70組織中、2組織が法人化(平成28年2月時点)

担い手

経営規模の拡大と高収益作物の安定生産により農業所得が向上

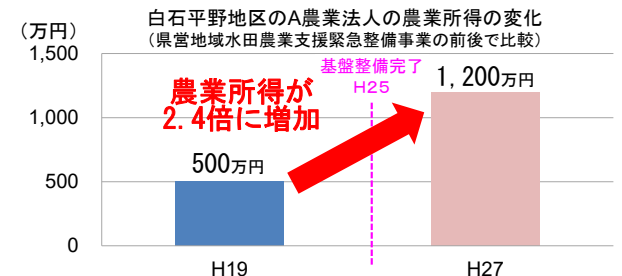
- 安定した米・麦・大豆の生産と併せて、たまねぎやキャベツ等の高収益作物の生産拡大を推進。作物転換・規模拡大が進んだことなどにより法人の農業所得が向上。



さが春一番たまねぎの出荷状況



キャベツの作付状況



【出典:佐賀県農地整備課による推計】

水田へのキャベツ栽培導入により女性や高齢者も活躍できる地域へ【佐賀県嬉野市】

うれしのし

国土強靱化

一億総活躍

地方創生

【工夫のポイント】

- 用排水路や農道の改良を契機に、担い手に農地を集積・集約を進め、法人を設立。
- 高収益作物の導入を契機に、女性や高齢者を雇用。
- 地元に根付いた企業と連携し、地域を盛り上げている。

【取組地域の概要】

- 位置 うれしのし
佐賀県嬉野市(特農)



- 主要作物
・水稲、麦、大豆、キャベツ 等

- 主な支援施策
・経営体育成基盤整備事業(H16~H21)
・農業基盤整備促進事業(H25~)
・農地耕作条件改善事業(H28~)

大区画化・汎用化による労力軽減と高収益作物の導入

基盤整備により、大型機械の作業効率が向上し、労力の低減を図るとともに、汎用化により高収益作物の導入を実現。



基盤整備
(H16年~)

【整備前】

農道が狭小であり、区画も効率的に耕作するには改良の余地があった。また、ほ場整備後30年近くが経過し、水田の排水機能が低下してきており、麦・大豆の生育不良も見られていた。



生産現場

高収益作物の導入

- 加工用キャベツや酒造好適米等を企業と契約栽培。所得の増加と安定収入を確保。



地域の取組

地元業者との連携、後継者の育成

- 地区内の法人と酒造会社が連携し、酒造好適米の産地づくりを実践。
- 将来の担い手育成のため、大型機械の利用指導やSNSを利用した情報共有を実施。



加工・流通

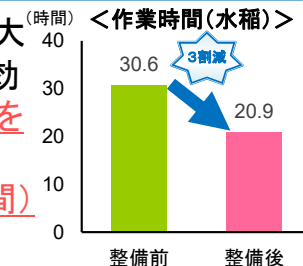
地元観光地への提供

- 嬉野温泉の湯豆腐の原料として大豆を提供。地産地消と付加価値を生み出している。

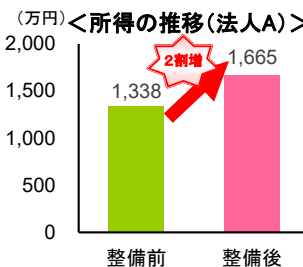


農業の競争力強化と新たな雇用の創出

- 畦畔除去による区画拡大により、大型機械作業の効率化が図られ、作業時間を3割削減。
(水稲:30.6時間→20.9時間)



- 高収益作物の導入や酒造好適米の作付を増加させることにより、所得が約2割向上。



- 余剰労働力で高収益作物の導入に着手。また、キャベツ栽培を契機に雇用された女性や高齢者が幅広く活躍。

<法人Aの雇用人数(H26~)>

	男性	女性
~30代		
40代	5	
50代	8	1
60代	7	2
70代~	6	6

【工夫のポイント】

- 区画整理や暗渠排水整備により、**高収益作物(キャベツ、たまねぎ、高菜)**の作付けを拡大。
- 基盤整備事業を契機に、**営農組織を法人化**。
- 効率化による余剰労働力で**6次産業化を推進**。

【取組地域の概要】

- 位置
かんざきし ちよだちよう
佐賀県神埼市千代田町



- 主要作物
・水稲、麦、大豆、玉ねぎ、キャベツ 等
- 主な支援施策
・国営筑後川下流土地改良事業(S51～H31)
・県営ほ場整備事業(S49～H11)
・県営かんがい排水事業(S52～H23)
・農地耕作条件改善事業(H28)

大区画化・汎用化による高収益作物の導入・拡大と6次産業化への取組

基盤整備により**高収益作物への転換**が図られ、農家の経営状況が向上。また、**基盤整備を契機に法人化**したことで作業の効率化が図られ、余剰労働力で**6次産業化へ取り組み**、売上が増加。



大豆の栽培状況



整備後

基盤整備
(S49年～H28年)

【整備前】

ほ場の区画や農道が狭小であり、大型農業機械の導入が困難であった。また、**用水の確保も課題**となっており、**不安定な農業経営**を強いられていた。



整備前

生産現場

省力化技術の導入に伴う作業時間の短縮

- コメの**直播栽培**に取り組み、田植え作業に係る**作業時間を短縮**。



直播作業風景

地域の取組

高収益作物の導入、拡大

- 水稲の作業効率化による余剰労働力で**高収益作物の導入が加速**。
〔キャベツ: 1.1ha(H26)→3.7ha(H30)
玉ねぎ: 0ha(H26)→1.6ha(H30)〕



キャベツの作付状況

加工・流通

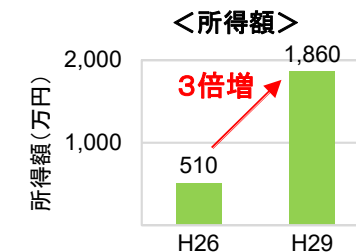
女性の元気を活かした6次産業化への取組

- 集落内の農家・非農家の女性で『バンビ乙女会』を発足し、**6次産業化に取り組み**。(女性12名で**高菜漬けと味噌づくり**を行っている。)

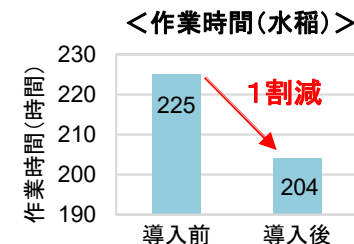


稼げる農業の確立と生涯働ける場の創出

- **高収益作物の導入が加速**し、代表的な法人の**所得額が3倍に増加**。



- 水稲の直播栽培の導入により、**作業時間を1割削減**。



- 加工部門を発足し、**女性が生涯働ける場を創出**。(40代から70代までの**女性12名で構成**)



味噌の加工状況

【工夫のポイント】

- 本地域は、低平地で排水条件が悪く、豪雨時には周辺農地や公共施設等への湛水被害が発生。
- 用水の安定供給及びクreek等の整備により、洪水の調節機能を確保し、湛水被害を軽減。

【取組地域の概要】

- 位置 しろいしちょう 佐賀県白石町

佐賀県



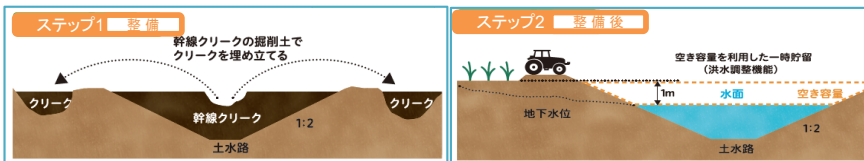
ちくごがかりゅうしろいし
筑後川下流白石地区

- 主要作物
・ 水稲、麦、れんこん、玉ねぎ、大豆 等
- 主要施設
・ 導水路 11km、排水路 13km
・ 排水機場 26箇所
- 主な支援施策
・ 国営かんがい排水事業 (S54～H26)
・ 県営ほ場整備事業 (S52～H9)
・ 県営地盤沈下対策事業 (S50～H28)

農地や公共施設の湛水被害を防止

- 断面が小さく湾曲しているクreekの再編整備により、クreekの直線化と有効容量を拡大。
(有効容量: 約50万 m^3 →約240万 m^3)
- 嘉瀬川ダムからの用水の安定供給(平成24年度供用開始)により、クreekの水位低下が実現し、洪水調整ポケットを確保。(洪水調整容量: 約140万 m^3)
- 排水機場の整備により、クreek内の余剰水を速やかに排水し、湛水被害を防止。(合計26箇所、170 m^3/s)

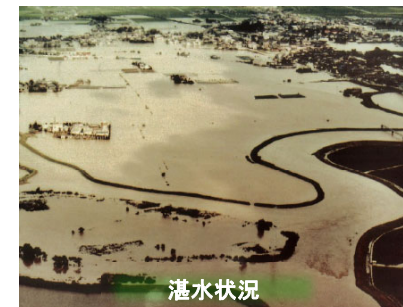
基盤



基盤整備
(S50年～H28年)

【整備前】

元々低平地であることに加え、用水不足解消のためのクreekへの農業用水貯留により、豪雨のたびに農地の湛水被害が発生。



生産現場

高収益作物導入の取組

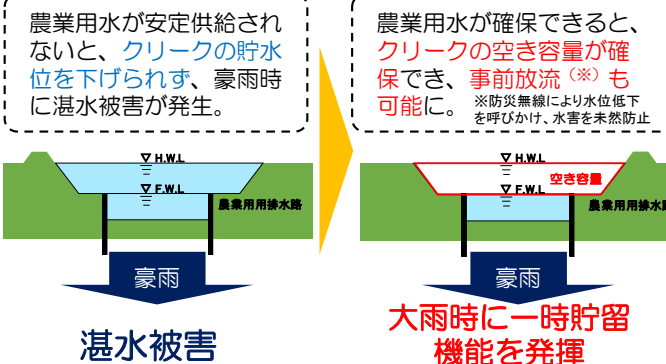
- クreekの水位低下による乾田化により、玉ねぎ等の高収益作物を導入。



クreekを生かした洪水調節機能の確保

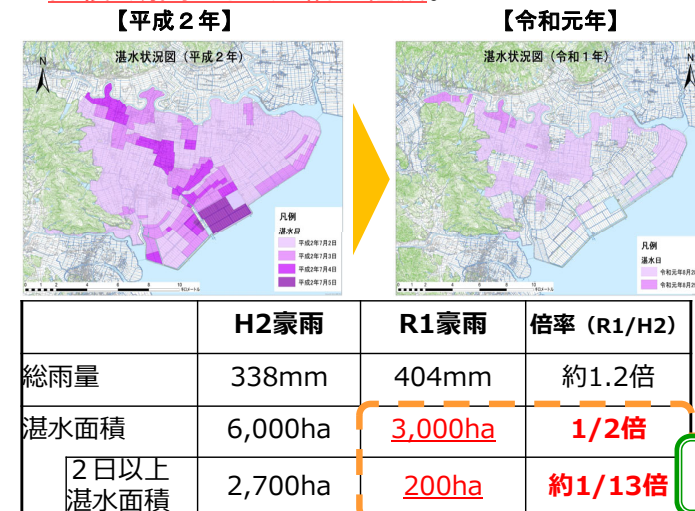
- クreekの水位低下による空容量に加え、事前放流などさらなる水位低下により、一層の洪水調整機能を確保。

地域の取組



湛水面積の軽減と農業被害の防止

- クreekの再編整備等により、高い防災・減災効果を発揮し、令和元年8月の豪雨(総雨量404mm)による湛水状況は、平成2年の豪雨(総雨量338mm)以上の降雨であったにもかかわらず、湛水面積・期間ともに大幅に軽減。



【工夫のポイント】

- 地形的条件、干拓地特有の地盤沈下による排水流下能力の低下、更に、地域開発による水田の貯水能力の低下や洪水流量の増加により、慢性的に湛水被害が発生。
- 排水機場や幹線排水路の排水機能の強化・回復に加え、クリーク水路等の整備により、湛水被害を軽減。

【取組地域の概要】

- 位置
さがし おぎし
佐賀県佐賀市・小城市

佐賀県



さがちゅうぶ
佐賀中部地区

- 主要作物
・水稲、麦、大豆、いちご、アスパラガス等
- 主要施設
・排水機場 11か所、幹線排水路 31km
・クリーク水路 384km
- 主な支援施策
・国営かんがい排水事業(S24～S48)
・国営農地防災事業(H24～)
・クリーク防災機能保全対策事業(H3～)
・県営地盤沈下対策事業(H3～)

農地や農業用施設の湛水被害を軽減

- 排水機場や幹線排水路の新設・改修、クリーク水路の堆積土の撤去・整備等により、排水・防災機能が増進。
- 排水能力の向上と排水施設全体の機能回復に伴い、余剰水を速やかに排水し、湛水被害を軽減。



基盤整備
(S57年～)

【整備前】

地盤沈下により地盤が海面より低く排水不良のため、豪雨のたびに農地や農業用施設等に被害が繰り返されてきた。



高付加価値農業の取組

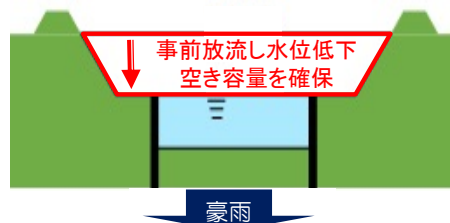
- 湛水の心配が減り、いちご・メロン等の施設園芸が急進、いちご「さがほのか」をブランドとして確立。



生産現場

クリークの貯留機能を活かした洪水調節

- 洪水警戒時に、事前放流を行ってクリークの水位を低下させ、一層の洪水調節機能を確認し、流域治水に貢献。



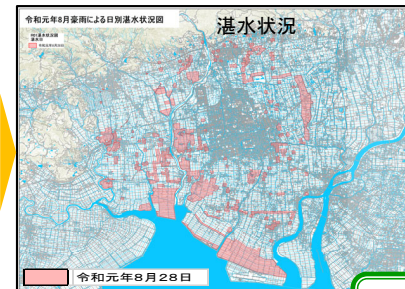
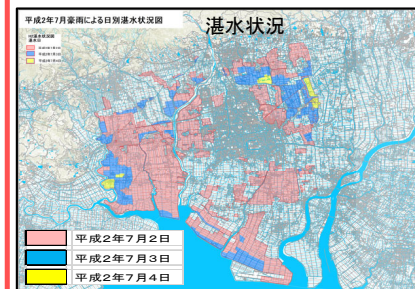
豪雨
一時貯留による洪水調整機能を発揮

豪雨による湛水被害の軽減

- 排水機場や幹線排水路棟の排水施設整備とクリーク整備による流下能力の向上が相まって地域の排水能力が大きく向上。
- 令和元年8月豪雨(湛水期間の総雨量455mm)による湛水状況は、平成2年7月豪雨(湛水期間の総雨量296mm)以上の降雨であったにもかかわらず、湛水範囲が大幅に縮小。

【平成2年7月豪雨時】

【令和元年8月豪雨時】



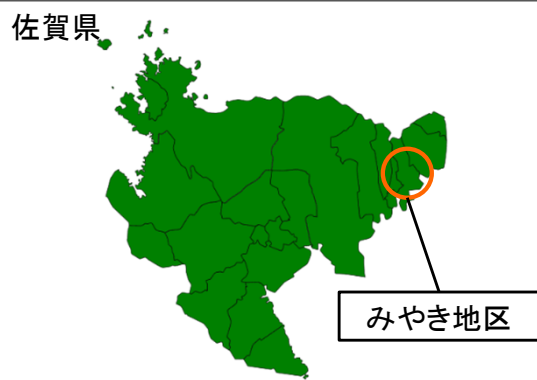
〔 湛水面積： 9,300ha (H2) ⇒ 3,400ha (R1) 〕

【対策のポイント】

- 都市化や混住化、土地利用の変化等にともないクリークの洪水負荷が増大。
- クリークが有する防災機能を保全・強化することにより、農村地域の湛水被害を軽減。
- クリークの整備が行われた地域では、事前排水による流域治水の取組を開始。

【取組地域の概要】

- 位置
佐賀県みやき町



- 主要作物
・米、麦、大豆、アスパラガス、トマト、いちご 等

事業名	事業費	対策期間
農村地域防災減災事業	6億8,000万円	H29～R5
うち3か年緊急対策	7,700万円	H30

農地、集落等の湛水被害を軽減

- 急激な水位変動等が引き起こす水路法面の崩落により、水路に土砂が堆積。
- 加えて、感潮河川の影響もあり、大雨時は湛水被害が発生。



基盤整備

(H29～R5)



事前排水の取組

- クリークの護岸が整備され、急激な水位変動による水路法面崩壊の恐れが少なくなった地域では、土地改良区を中心として、クリークからの事前排水を開始。



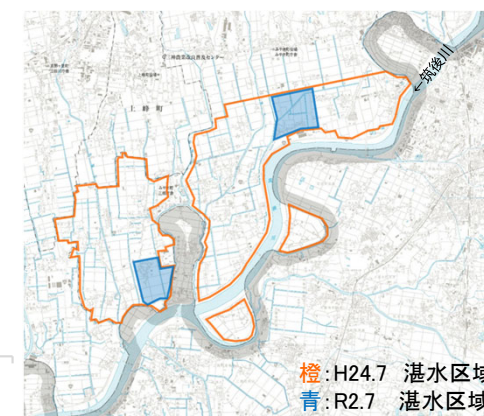
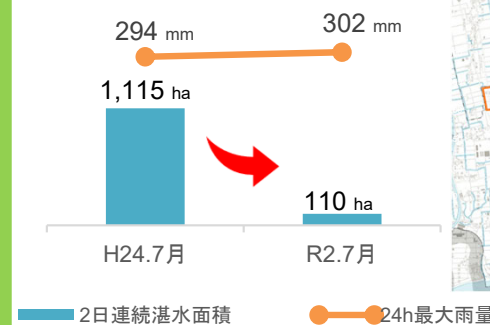
- 洪水調節のためのポケットを拡大し、大雨に備える。

対策の効果

クリークの再整備により湛水被害を軽減

- 近年、豪雨災害が頻発化・激甚化する中で、クリークの再整備により湛水被害を大幅に軽減。

24h最大雨量と湛水面積



筑後川周辺の湛水状況
(みやき町)

【工夫のポイント】

- ほ場整備などの実施により担い手への農地集積が進み、**法人を設立**。
- 生産した特別栽培米やもち麦等を自ら販売し、**ブランド力を強化**。
- **農業女子グループの結成**により、マルシェなどの**新たな活動や情報交換が活発化**。
- 法人では、作業内容などを工夫し、**女性が働きやすい環境づくり**を実現。

【取組地域の概要】

- 位置 おぎし
佐賀県小城市

佐賀県



みかつき
三日月地区

- 主要作物
・水稲、麦、大豆
- 主な支援施策

- ・県営圃場整備事業 (S43～S60)
- ・県営土地改良総合整備事業 (H3～H24)
- ・農地耕作条件改善事業 (R1～R2)

基盤

ほ場整備などによる耕作条件の改善

ほ場整備や暗渠排水などの整備により、地区内の耕作条件を改善。担い手のニーズに応じた農業展開が可能。



暗渠排水整備後の農地



整備されたほ場

(参照：国土地理院地図P)

基盤整備 (S43年～)

【整備前】

ほ場は狭小で不整形。水はけも悪いことから、担い手への農地集積や担い手が望む農業の展開に支障。



水はけが悪い農地



狭小で不整形な区画

(参照：国土地理院地図P)

加工・流通

ブランド化の推進

- H17に農業法人「七島農産」を設立。特別栽培米や麦、大豆を、「**ななしま家**」としてブランド化。
- 経営に女性も参画し、需要者のニーズを捉え、**酒米やパン用小麦の栽培にもチャレンジ**。



特別栽培米の販売



酒米の栽培

女性が働きやすい環境づくりと担い手育成

- 女性経営者は、県の農業女子グループ「カチカチ農楽が〜」の一員。マルシェや会員座談会など、女性のつながりを活かした活動を展開。
- 女性専用のトイレ設置など、女性が働きやすい環境づくりを進めている。
- インターンシップ生等の受入れを行い、担い手育成に取り組む。

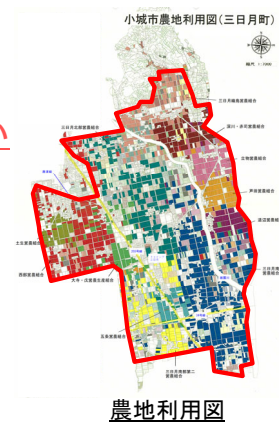
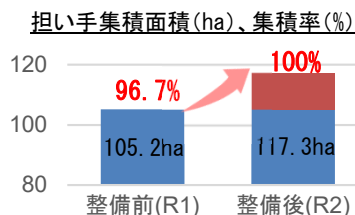


女性経営者の検査状況

地域の取組

地域全体の農地集積促進

- 暗渠排水の整備により、耕作条件を改善したことで、**担い手による農地集積が促進**。

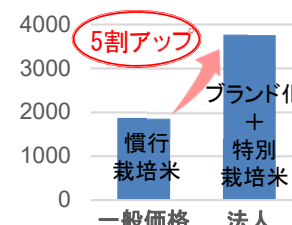


農地利用図

法人によるブランド力の強化

- ほ場整備や暗渠排水の整備により水田を汎用化し、**大麦(もち麦等)や小麦を安定的に生産**。
- ブランド化した特別栽培米やもち麦を店頭やHPで販売し、**高付加価値化を実現**。作付面積も増加 (S60: 8ha → R4: 29ha) し、更なる収益向上を目指す。

特別栽培米価格 (円/5kg)



【工夫のポイント】

- 園芸団地入植者（担い手）の営農ニーズに応じた基盤整備を行い、きゅうりの施設団地化を実現。
- 情報技術（IoT）を導入し、コスト・労力の低減や効率的な生産を図り、所得の向上と安定化に取り組む。
- 新規就農者への技術指導役を現役きゅうり農家が担い、地域の担い手を育成。

【取組地域の概要】

- 位置 きしまぐんおおまちちょう
佐賀県杵島郡大町町



- 主要作物
・水稻、大豆、小麦、大麦、たまねぎ、冬春きゅうり
- 主な支援施策
・県営ほ場整備事業（S48～S62）
・県営経営体育成基盤整備事業（H19～H25）
・農地耕作条件改善事業（R2～R4）

入植者（担い手）のニーズに応じた基盤の整備

- かんがい排水施設、暗渠排水及び農作業道の整備により施設園芸に適した環境が実現。



園芸団地整備状況 R4. 10月撮影

基盤整備

（R2年～R4年）

【整備前】

ほ場整備が実施された農地で米・麦・大豆中心の土地利用型農業を展開。



土地利用型農業を展開

生産現場

情報技術（IoT）を導入した営農の効率化

- きゅうり栽培に温度や湿度が自動で管理できるIoT管理ハウスを導入。
- 環境制御技術や自動灌水装置などの導入により、労力の軽減や高収益作物の安定した品質・収穫を実現。



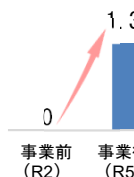
養液栽培状況：定植直後

地域の取組

農地中間管理事業を活用した集積促進

- 農地中間管理事業の活用により、全ての農地を入植者（担い手）へ集積。
- 担い手への集積により、高収益作物（きゅうり）の栽培面積も増加。

きゅうり栽培面積（ha）



新規就農者（担い手）の確保と育成

- 県、町、トレーニングファーム、JAの連携のもと、新規就農者の園芸団地入植を募集。
- 地域の現役きゅうり農家が、園芸団地に入植した新規就農者1名の指導、相談役となって担い手を育成。



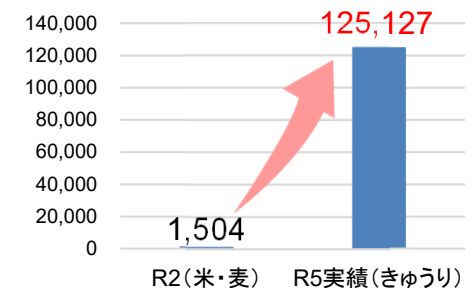
募集パンフレット

【出典：JAさがHPより】

高収益作物の導入による所得の向上

- 基盤整備による耕作条件改善と併せて情報技術（IoT）を活用した効率化により、地区において米・麦から高収益作物（きゅうり）への転換を実現。

販売額（千円）



【出典：下大町地区個別整備計画、入植者聞き取り】



土耕栽培状況

収穫状況